

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400709		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム笑顔の村		
所在地	札幌市手稲区富丘3条3丁目8番16号		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400709-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和元年 11月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、約9年間グループホームを運営しておりました札幌手稲区稲穂から、平成23年8月に新築し、移転致しました。「笑う」という人間が持つ素晴らしい力、「笑顔」が人を癒す力、そんな人を幸せにする「笑顔」をスローガンにしています。暮らされている方、働いている職員、お越しに下さる方全員が「笑顔」になれる、「笑顔の村」を作っていきたいと全職員で取り組んでいます。また、家庭的な雰囲気の中で、心穏やかに充実した日々を送れるよう、利用者一人ひとりの要望等を尊重し、天気の良い日は、散歩や買い物に行き、町内の夏祭りや新年会へ積極的に参加させて頂き、地域の一員として、地域の方々との関わりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念「今日も笑顔でありがとう」が全職員に定着し、利用者と職員、来訪者が笑顔で過ごすことができる雰囲気が感じられます。手稲山の裾野に広がる札幌の街並みや夏には石狩湾の花火大会も望むことができる居間の大きな窓からは季節の移り変わりを感じることができます。地域の理解や協力も大変良好で、町内行事の参加や定期的な個人のボランティア、昔遊び伝承ボランティア、音楽ボランティアなど多彩で利用者に喜ばれています。手稲区主催の施設見学会や地域の方の認知症相談窓口として事業所を開放しています。玄関前の畑ではトマトやキュウリなど野菜を栽培し、利用者との水やりや収穫を一緒に行い、採れた野菜は食卓に彩りを添えています。一人ひとりの生活の質を重視し、居室や廊下、風呂場には稼働可能な手摺を設置し、利用者が安定した体勢で移動できるように配慮しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、ミーティングを通して確認し、理念に基づいて良いサービスを提供出来ているか、常に念頭に入れながら日常のケアに取り組んでいる。	理念は玄関と居間の壁の見やすい場所に掲示されています。申し送り時やミーティングなどの機会に全職員で実践に繋がっているか確認し共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事(夏祭り、ねんりんピック、新年会等)に積極的に参加している。また地域ボランティア活動の受け入れに協力し、定期的にくて頂きながら交流をはかっている。	町内行事に参加し地域ボランティアを積極的に受け入れ、利用者は地域に溶け込んだ生活を継続しています。近隣の方々の認知症についての相談も受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で出席者(民生委員)と話し合い、連携を図っている。認知症に対しての相談窓口として、いつでも利用して頂けるよう、環境を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況報告や活動状況の報告、行事予定の報告等を行っている。随時、必要な情報があればお知らせしたり、意見交換を行っている。参加者を交えて避難訓練を定期的実施し、訓練後アドバイスを頂いている。	運営推進会議は年6回、定期的に2階に併設の事業所と合同で開催され町内会長、町内役員、民生委員、ボランティア、地域包括支援センター長、利用者、利用者家族など多彩な顔ぶれで活動報告や意見交換が行われています。	運営推進会議では事故報告、ヒヤリハット等課題となる内容も報告し、情報開示の幅を広げながら、事業所の理解をより深めてもらう取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市や区で開催される管理者会議等で、情報交換や研修に参加し、相談や助言を頂いている。	区の担当者や地域包括支援センターと連絡を取り合い、情報交換を行っています。区主催の「手稲ふれあいフェスティバル」ではグループホーム施設見学会の会場として参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針に基づき、2ヶ月に一回、身体的拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を行っている。玄関は防犯上の理由で施錠をしていますが、利用者の自由な活動に十分配慮し、拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束マニュアルや指針を使用し、年2回職員研修を行っている。	身体拘束をしないケア、虐待防止に向けて年2回の研修、3カ月に1度の委員会を行っています。職員同士は言葉遣いなど注意し合える環境で、管理者はアフターフォローをしています。研修では自己チェックシートを活用し理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に係るマニュアルを基に、職員研修を行っている。職員同士、言葉遣いや対応に関して注意し合うようにして、十分な理解を図り、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の理解に努めており、利用者が活用する為の話し合いや関係機関への橋渡しができるような体制が整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、時間をかけ、分かりやすく説明している。利用者や家族の不安や疑問等を聞き入れ、十分理解し、納得を得た上で手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望等が出た場合は、直ぐに個人ノートに記入し、申し送りやミーティング等で話し合い、全職員で対応策等を検討し、ケアの反映に務めている。	面会時や電話での話の中で、家族から意見や要望を聞いています。利用者や家族から意見、要望があった場合はノートに記入し、日々の申し送り時に伝えるほか、管理者と主任を中心に内容を検討して速やかに対応を全職員に伝え共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で職員の意見を受け止め、働きやすい環境作りに務めている。いつでも意見や提案、相談等に耳を傾け、サービスの向上に努めている。定期的に個別面談を行い、職員の意見を大切にしている。	管理者は日々の業務等でコミュニケーションを取りながら意見や提案があったときは、全体会議で取り上げ検討しています。年2回の個人面談では個々の目標を聞き取り自己目標を達成できるようサポートしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握しており、役職を就けたり、手当を支給する等、職員環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内外の研修に参加し、ミーティングで報告の場を設けて質の向上に努めている。また、働きながら初任者研修、実務者研修、介護福祉士、ケアマネージャーの資格を取得した職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市や区で行われる勉強会では、意見交換や事例検討が行われ、ミーティング等で内容を報告し、サービスの向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に管理者と計画作成担当者が面談を行い、利用者が日常的に不安な事、悩み事等を把握し、ミーティングで話し合い、円滑なコミュニケーションが図れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の思いや不安、要望などをお聞きし、良好な関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報収集を行い、本人にとってどのようなサービスが必要かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日を共に過ごす中で、家族のように信頼していただけるよう、会話や家事を通じて触れ合う機会を増やしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪の際は、日頃の本人の様子をお伝えしたり、本人の好きな事などをお聞きし、情報を共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや行事に参加したり、家族とお墓参りに出かけられている。	町内行事への参加や友人の訪問、電話を取り次ぐなど今までの関わりを大切に支援しています。訪問理美容師、週3回来所のマッサージ師とも馴染みの関係となり会話を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士が近くに座れるよう席の配置を考えている。また、レクリエーションなどを通じて入居者様同士が交流を持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の了承を得て、転居先や入院先に会いに行き、会話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向をお聞きしている。困難な場合は、その都度表情や発語から思いを汲み取る努力をしている。	食事やトイレ等その都度本人の意向を聞いています。意思表示が困難な方にはその方の個性を把握し表情やしぐさで思いを感じ取り、介護記録に記載し全職員で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査や御家族様から話を伺ったり、情報収集を行っている。新しく得た情報は常に把握し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況、生活リズム、心理状態等を記録に残し、申し送りや連絡ノートを活用し、情報を共有している。小さな変化にも気づき、適切に対応するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と御家族様の意向を元に現状のニーズに見合った介護計画を作成している。状態変化がある場合は随時見直しを行っている。	モニタリングは3か月に1度、状態に変化があった時はその都度介護計画を作成しています。本人や家族の思いを基本に利用者にとって最適な支援ができるように配慮しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録用紙には、日々の様子や注意点などを詳しく記入し、情報を共有している。職員は申し送りや連絡ノートを活用し、状態の変化や気づきを共有することにより、ケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気、季節感を大切にし、お祭りやクリスマス等の行事を組み入れ、日々の暮らしが豊かに送れるよう支援している。五番地との交流を行い、お互いの行事に参加出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加することで普段見られない姿を見ることが出来る。定期的に幼稚園、小学校との交流やボランティアの来訪があり、地域の方々との交流も盛んになり、理解も得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には訪問診療で対応しているが、家族と相談しながら医療機関を受診している。家族が同行出来ない時はケアワーカーが同行している。	訪問診療は月2回あり、看護師も週に1度訪問があります。体調の変化があったときは24時間対応が可能です。希望者には歯科医の訪問診療も週に1度あります。本人の希望でマッサージ師が週3回施術に来ており機能が回復した利用者もいます。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックを受け、日頃の体調管理に努めている。体調の変化は全て報告し、受診の必要性の判断や指示をもらい適切な医療が受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前までの生活状況を介護連絡票にて情報提供している。入院時、退院時には担当看護師、相談員との情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族に看取りの説明を行い、終末期をどのように迎えたらよいかを話し合い、方針を決めている。ホームでの看取りを希望された際には、本人、家族、主治医、看護師と連携を図り、最大限納得出来る終末期を過ごせるよう支援している。	契約時に重度化した場合や終末期の対応に関する指針の説明と同意を得ています。これまでに看取りの経験が複数件あり、職員は看取りケアの研修を受け、利用者、家族の希望する終末が過ごせるよう、チームで最善の支援に取り組んでいます。	看取りに関する研修が行われ、職員のスキル向上に努めていますが、今後は看取り後の職員に対するサポート体制作りの検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で急変や事故発生時には緊急マニュアルに沿って対応出来るようにしている。AEDを設置して緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、昼間と夜間に火災、地震等を想定して防災訓練をしている。町内の方、消防署の方の協力により、入居者、職員共に行っている。	年2回昼、夜間想定で2階に併設の事業所と合同の避難訓練を消防、町内会の協力を得て行っています。全職員が携われるようにし、緊張感を持って取り組み、訓練後は振り返りで助言を得ています。管理者は毎日火災の原因となるような事が無いか居室や設備の点検を行っています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊重した接し方をしている。日々のケアを振り返りながら対応している。記録等、個人情報の取り扱いには十分に気を付けている。	かける言葉や声の大きさに配慮しながらケアに努めています。日々の記録簿は記入時のみ取り出し、記入後はすぐに片づけるなど個人情報の取扱いにも留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話から希望を確認したり、わかりやすい言葉かけで自己決定しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	仕草や行動を見極め、個々に合った生活への思いを察するように配慮している。また、その日の体調や精神状態により、一人一人のペースを大切に、思いに沿った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用している。四季に沿った装いが出来るように衣替え等の支援も行っている。起床時、鏡の前で身だしなみを整えていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの料理やおやつ、その日に食べたいものを聞き、献立作りをしている。庭で一緒に育てた野菜を収穫したり、どんな料理に使ったら良いかを話し、四季を感じられるようにしている。	食材は週2～3回ネットスーパーを利用しホームで作っています。四季折々の行事食のほかホーム内行事では好みの料理を揃えたバイキングが好評です。畑では野菜を作り一緒に収穫をし、食卓に彩りを添えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量や食事形態に応じた食事、水分の提供を支援している。毎日、一日の水分摂取量、食事摂取量を記録に残し、職員が把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。個々の状態に合わせて一部介助、全介助にて支援している。また、夕食後は義歯の消毒、保管を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合ったトイレへの誘導、声かけを行っている。排泄の失敗があった時は清拭を行い、清潔を保つようにしている。	利用者の排泄パターンを把握し、体調など考慮しながら声掛けを行っています。廊下トイレ内に手摺を設置し、安定した体位が取れるように工夫しています。衛生用品の使用は利用者、家族と相談、検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便があった時は必ず記録に残し、便秘になっていないかを把握している。便秘になりやすい入居者様については、医師から処方された下剤で、いつでも対応出来るようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴時は、楽しい会話を心がけ、安心できる声かけと介助を行っている。入浴に拒否が見られた時は、時間を置いてからまたお誘いしている。	週2回、曜日を決めて同性介助で入浴支援をしています。利用者の希望や体調によっては臨機応変に対応しています。入浴中は会話をしながら気持ちを聞き取ったり、身体に異変がないか、さりげなく確認をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、座って過ごすことが多い入居者様には、身体の痛みや配慮し、本人の希望に応じて自室にて横になっていただいている。夜の就寝時間までは、テレビを見たり会話をされたりと、好きな事をして過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時は、連絡ノートにて職員全員が把握出来るようにしている。体調に変化があった時は、医師に相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の身体能力、楽しみごとに沿った役割を見つけられるように、日々のコミュニケーションを大切にしている。洗濯物たたみや、食器拭きをしていただいたり、外に出て庭の花の水やりをすることで、気分転換につながっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内行事に参加されたり、買い物に出掛けて好きな物を購入されている。お盆には、家族同行にてお墓参りに出かけられている。	町内行事に参加したり、買い物の外出支援も行っています。全員での外出は難しくなってきましたが、カラオケに行ったり、「前田森林公園」にドライブで出かけています。夏場は畑の野菜に毎日利用者と水やりをしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が理解しながら利用者様の希望を聞き、買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話をかけるのが難しい場合、職員が相手に取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内、玄関、廊下には季節に合った装飾をしている。食卓の他にも、座ることの出来る椅子を用意したり、本や雑誌を置き、居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	玄関、居間、廊下には利用者と職員と一緒に作成した季節の装飾がされています。居間の大きな窓からは札幌の街並みも見え季節の移り変わりが感じられます。利用者の希望に合ったテーブル配置にし、ソファや本棚も置かれています。温湿度に配慮し気持ち良く過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、入居者様同士や職員と一緒に座って会話をしたり、レクリエーションが出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご自宅で使用されていた家具や、思い出の品を持って来られたり、テレビや装飾品を置いて、居心地よく過ごせるようにしている。	自宅で使用していた家具や寝具を持ち込み使用しています。思い思いに写真や好みの装飾品、テレビや仏壇など置き居心地の良い居室となるよう工夫しています。利用者の身体の状態にあった手すりを付け安全に移動できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを増やしたり、歩行の障害になるようなものを置かないようにすることで、出来るだけ自立した生活が出来るようにしている。トイレに迷わないよう、大きな文字で表記し、わかりやすいように工夫している。		